

日増しに明るさを増す朝夕の日差しに、登校坂の桜の芽も膨らみ、春の訪れを感じる季節となりました。本日ここに、振興会会長砂田哲也（すなだ てつや）様、まつら同窓会会長中島幸利（なかしま ゆきとし）様をはじめ、ご来賓の皆様方、保護者の皆様方のご臨席を賜り、令和2年度 佐賀県立唐津西高等学校 第六十五回卒業証書授与式を挙行できますことは、大変有り難く、心より厚くお礼申し上げます。

本日めでたく卒業される百五十七名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年前の四月、皆さんはこの場所で、当時の時貞充尚（ときさだ みつなお）校長先生から式辞の中で皆さんに「何よりも、自分と相手の「命と気持ち」を大切にするという姿勢を忘れずにいてください。実生活の中では、常に、「相手の目で見、相手の耳で聞き、相手の心で感じる」という気持ちを持ちながら、思いやりの心を忘れずに、生活してくれることを切望します。」という言葉で入学を許可されました。

皆さんはこの期待に応え、実用英語検定準1級合格をはじめとする学習は勿論、制約が多い中、部活動や学校祭において多くの素晴らしい成果を挙げてくれました。何より、進学や就職という人生の節目「十八歳」である進路決定に際しては、北海道の大学へのオープンキャンパスに参加し、見事に自らの進路目標を達成するなど最後まで諦めることなく、厳しい試験に耐え抜いて、多様な進路先実現のために挑戦してくれました。

こうした皆さんの姿は、部活動や学校祭での力強いリーダーシップとともに、西高「まつら」の伝統の中に、新たな一頁として書き加えられ、後輩たちが地元に貢献できる志を持って、しっかりと受け継いでくれるものと信じています。それを温かく見守り、今まで一心に支えてこられた保護者の皆様のお喜びは如何ばかりかと、心からお祝い申し上げます。

さて、令和2年度は、夏には2020東京オリンピックがあり、本校ヨット部卒業生の岡田奎樹（けいじゅ）選手や南里研二選手の活躍にも期待するとともに、数々の感動の名勝負がたくさん観ることができ、華やかな1年が始まるとみんな思っていたと思います。

しかし、新型コロナウイルス感染症による2度の臨時休業によるオンライン授業や県総合体育大会の中止から代替大会SSP杯の開催、双松祭の短縮、そして大学入試の制度設計の変更などすべてこの1年はコロナで終わったと言っても過言ではありません。でもこの感染症で「学校や先生、友人、家族との日常へ」の「期待と感謝」を感じたと思います。まさにAIの時代に「人間らしさ」「人間力」「人間性」の大切さを知ることができたと思います。

あなた方は、Society5.0（超スマート社会）の実現に向けて技術革新、新型コロナウイルス感染症の戦いのなかに生きていきます。「人生100年時代」を豊かに生きていくために志や希望を持ち、その実現のために取り組むためには、「双松の力」の中で、特に社会で生きていくための力「人間力」、積極的に他者や社会と繋がりとする力「共感力」自ら志を立て、努力して実現できる力「自走力」が必要です。この「人間力」「共感力」「自走力」は不安や悩みが差別を生む感染を断ち切り、社会的弱者へ「優しさ」や「思いやり」もつ行動と志を育てます。まさに本校の三つの教育指針「師弟同行（共育）」「朝（あした）に希望 タ（ゆう）べに感謝」「明るい挨拶 気持ちの良い挨拶」と「双松の力」の実践が生き抜くためには必要です。

「人生100年時代」を希望に満ち溢れ、生きていくためには、自分の夢や目標をしっかりと持って、その実現に努力するとともに、社会の中で自分の役割を考え、自分の人生に「志」

を持ってほしいと思います。この「志」という漢字の上部の「士」はもともと「之」の字が当てられており、「行く」という意味がありました。そして、「士」と「心」が組み合わせることで「心が行く」から「心が突き動かされる」と変化し、「志」という漢字ができました。自分の気持ちが向かうところ、つまり「内から発露される強い気持ち」を表現しています。例えば、「困っている人のために少しでも役に立ちたい」「ふるさと唐津に貢献したい」という思いを持てば、もう立派な「志」だと思います。では、「志」を持つためには心を変えなければなりません。

そこで次の言葉を卒業式に当たり贈ります。

心が変われば 態度が変わる。

態度が変われば 行動が変わる。

行動が変われば 習慣が変わる。

習慣が変われば 人格が変わる。

人格が変われば 運命が変わる。

運命が変われば 人生が変わる。

この言葉を心の片隅に置き、ぜひ人生の指針としてください。

ところで、本校は、一九〇七年（明治四十年）に町立唐津女学校として設立され、本年度創立百十三年目を迎えています。「朝（あした）に希望、夕べに感謝！」の建学の精神のもと、地元で貢献できる志のある人材の育成を目指してきました。創立百十周年記念の皆さんが座っている椅子、20年間語り続けている顕彰講話ハナコフェアの「先輩の勇気ある行動を語り継ぐあかし」のハナ子顕彰碑などは「まつら同窓会」の方々から寄贈されたものです。このように、卒業生の皆さんと学校は、同窓生という決してお金で買うことができない強い絆で結ばれているのです。これからは、今までと違う新しい生活、人間関係の中で時に疲れ、孤独を感じることもあると思います。ここは、「志」に向かって、それぞれの分野で日夜頑張っている皆さんが、少し立ち止まって、自分の位置を確かめる場所です。生涯の友、後輩、母校の先生方を思い出すことで、エネルギーを補給し、自分が進むべき方向を確認してみてください。

最後になりましたが、改めて保護者の皆様にお礼を申し上げます。入学以来、本校の教育方針をよくご理解いただき、物心両面からご支援を賜りまして、誠に有り難うございました。子どもたちには言えない苦労も多々あったことかと存じますが、粘り強く寄り添っていただきましたことに心から感謝申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、それぞれの新しいステージへの旅立ちの時です。伝統ある西高生としての誇りを胸に、しっかりと志を持って歩み続けてください。皆さんの洋々たる前途を祝するとともに、大いなる活躍を祈念しまして、式辞といたします。

令和三年三月一日

佐賀県立唐津西高等学校長

吉山 耕一郎